

# 価値提供の歴史

エレクトロニクスの進化は、人々の生活を豊かにし、さまざまな夢を実現してきました。その歴史の推進力のひとつが、 ムラタの電子部品です。その時代に必要だったもの。次の時代の夢を象徴していたもの。電子部品もまた、時代を語って いるといえるでしょう。そして、時代を語るものは、また、静かに未来を語り始めるのです。

#### 創業~電子部品需要の 急拡大に対応

(1944年~1954年)

1944年、創業者である村田昭は京 都四条大宮北の旧染物工場に「村 田製作所」の看板を掲げ、個人事 業主として創業。戦後にかけて酸 化チタン磁器コンデンサの製造を 行いました。またラジオの民間放 送開始などによる通信機器の普及 により、電子部品需要が急速に拡 大する中、1950年、ムラタは「株 式会社村田製作所」として改組し ました。

しかし、その後経験した大不況下 での経営危機により、会社が成 長・発展していくためには経営理 念が必要であると強く感じた村田 昭は、1954年、会社を立て直すた め、最初の社是を制定しました。



温度補償用コンデンサ

44年、京都市中京区で村田 作所、創業。当時の社屋。

村田製作所創業
セラミック素体の量産化に成功
京都大学の田中哲郎助教授に出会う
チタン酸バリウム磁器コンデンサを 日本で初めて量産

1950年 株式会社村田製作所設立

1951年 福井工場開設

1952年 東京出張所、京都工場設立

1953年 初の経営方針発表

1954年 最初の社是の制定

#### 技術力を強化 研究開発に積極的投資

(1955年~1969年)

世界の技術革新の波に対応するに は、基盤となる技術力強化の必要性 があると判断した村田昭は、1955 年、社内の研究開発部門を分離独立 して「大宮技研」を設立しました。さ らに、翌年に名称を「村田技術研究 所」と改称し、乙訓郡長岡町へ移転。 当時の企業規模では考えられない最 新式の設備を備えました。村田技術 研究所での研究開発への挑戦は「研 究開発には思い切った投資を行う」 という経営哲学を生み、その後のム ラタの研究開発に対する考え方の基 本となりました。また、1960年代後 半にはムラタの原動力となる「積層 セラミックコンデンサ」の開発が始 まりました。セラミック材料、電極 材料から製造設備までをすべて自社 で開発し、合理化、改善を進めたこ とが、今日の積層セラミックコンデ ンサの成長につながっています。



1969年 東証二部に上場

1962年、昭和天皇、皇后両 陛下が福井村田製作所に行 を啓。このとき作った日本 の花時計は、今も福井村

1955年	大宮技研設立
	福井村田製作所設立
1956年	村田技術研究所を長岡町に移転
1961年	本社を長岡町に移転
1962年	福井村田製作所を天皇皇后両陛下た ご視察
1963年	大証・京証、第二部上場
1965年	アメリカに初の販売会社を設立

#### 第一部市場に上場 海外現地生産を開始

(1970年~1989年)

本格的なエレクトロニクス時代を迎 えた1970年、村田製作所は東証、大 証ともに第一部市場に上場しまし た。さらには、電子部品の需要が拡 大するASEAN市場への供給体制を確 立するため、1972年、シンガポール ₹ Murata Electronics Singapore (Pte.) LTD.を設立し、セラミックコンデン サの現地生産を開始しました。これ は、ムラタ初の海外現地生産会社で あり、多国籍企業に向けての第一歩 となった進出でした。また国内でも ニーズの多様化に対応するため、エ 場や研究開発拠点の新設など拡張を 次々と進めていき、これがその後の ムラタの成長を牽引していく大きな 力となりました。





987年 滋賀県野洲郡野洲町(現・野洲市)に野洲事業 所を、1988年、神奈川県横浜市緑区に横浜開発センタ-を開設。研究開発体制を強化する。

1970年	東証・大証第一部に上場
1971年	イワミ電子工業を天皇皇后両陛下が ご視察
1972年	シンガポールに初の海外生産・販売 拠点を設立
1976年	シンガポール証券取引所上場
1979年	創業35周年「社是」の改定
1980年	ERIE社の買収
1982年	電気音響の資本と経営に参加
1987年	野洲事業所設立
1988年	横浜開発センター設立
	タイに生産会社設立
1989年	電気音響と合併

### 新たな 経営体制の構築

(1990年~1999年)

1944年の創業以来約50年にわたり 社長を務め、ムラタを国際的な電 子部品メーカーに育て上げた村田 昭は、1991年3月、70歳を迎えた ことを機に経営トップの若返りを 図り、経営体制を刷新しました。 後任の社長には村田泰隆が就任 し、それまでの創業社長の経営力 とリーダーシップによる組織運営 から、経営体制の充実と経営管理 の効率を高めるなど、コーポレー トガバナンスの強化に着手しはじ めました。

創業50周年となる1994年には、ス ローガン"Innovator in Electronics" を制定しました。エレクトロニク スの分野においてイノベーターで ありたい、という想いを込め、常 に新しいものを探求する開拓者精 神や熱意を表しています。



1991年	村田泰隆が社長に就任
	初代ムラタセイサク君®の開発
1992年	中国(北京)駐在事務所設立
1993年	マレーシアに生産会社設立

1994年 中国(無錫)に生産会社設立

## 組織風土改革に着手 本社を新築移転

(2000年~2009年)

さらなる成長段階へと挑戦するた めには、これまで以上にお客様指 向および現場指向の経営風土を根 づかせることが必要であるという 想いより、2004年、ムラタは組織 風土改革をスタートさせました。当 取り組みでは、社是をベースに社 会への貢献、お客様満足(CS)の向 上、従業員のやりがいと成長(ES)、 事業戦略といったあらゆる観点で 見直しを行い、次の成長戦略に向 けた体制を構築しました。さらに 同年、本社をJR長岡京駅東側に移 設し、本社機能や事業部の企画機 能など中枢機能を集約しました。 また、2007年、村田泰隆社長が代 表取締役会長に就任し、後任の社 長には村田恒夫が就任しました。





ムラタセイコちゃん®

2004年	組織風土改革スタート
	本社を新築移転
2005年	二代目ムラタセイサク君®の開発
2007年	村田恒夫が社長に就任
	本社敷地内に研究開発棟が竣工
2008年	ムラタヤイコちゃん。の開発

## 売上高1兆円を達成 持続的成長を目指す

(2010年~)

お客様をはじめさまざまなステー クホルダーの皆様のお力添えのも と、2015年、ムラタは創業以来の 歴史において大きな節目となる売 上高1兆円を達成しました。これ をひとつの通過点とし、今後もモ ノづくりをはじめ、商品開発、人 材開発など事業基盤の強化に努め、 中核市場のみならず注力市場にお いても事業拡大に向けて取り組ん でまいります。さらには、買収、提 携を積極的に進め、ムラタの中に 蓄積された技術やノウハウと、新た な技術やアイデアとを組み合わせ、 今後さらなるエレクトロニクス社 会の発展に貢献してまいります。



村田製作所チアリーディング部

雷池事業買収

VTI Technologies Oy買収 (現、Murata Electronics Oy)
(35) Mulata Liectionics Oy)
東京電波の完全子会社化
村田製作所チアリーディング部の 開発
売上高1兆円達成
東光の完全子会社化 プライマテック(現:伊勢村田製作所) の買収
V) 941A

03